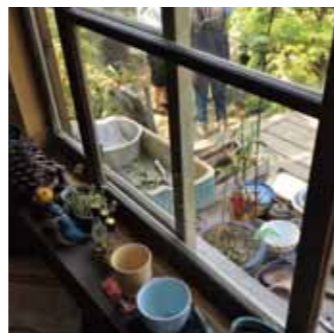


新緑の五月は創造のとき。  
ビートルズが教えてくれた、  
ギターが一本あれば  
誰でも音楽をつくることが  
できることを。  
それが世界の共通スタイル。  
子供たちの絵を観よう、  
誰もが自由に絵を描く楽しさを  
暮らしの中に見つける事が出来る。  
伊豆の海は今日は優しい  
沖に大島が観える。



©1956 PAKAMOUNT PICTURES CORP. All Rights Reserved.



『パリの恋人』(原題 Funny Face) 1957年作品  
監督:スタンリー・ドーネン  
製作:ロジャー・イーデンス  
脚本:レナード・ガーシュ  
撮影:レイ・ジューン  
音楽:ジョージ・ガーシュウィン、アドルフ・ドイッチ  
出演者:オードリー・ヘップバーン、フレッド・アステア、ケイ・トンプソン

映画『パリの恋人』上映会

5月16日(水) 18:00開場 18:30上映開始(103分)

会場 45 BAAN HATAH (バーンハタ) ☎ 0557-53-7155  
MAP 3  
席数50席(予約可・予約受付は前日まで) C-8

この町に映画を!そんな想いから  
映画好きの仲間と自主上映の計画をたてる。

「伊豆高原ならやっぱりミニシ  
アターが良いだろう」「第一回  
目の作品は、「こう来たかあ」と  
いう感じのになしたいな」「黒澤  
映画は?」「ウエス・アンダー  
ソンなんか面白いねえ」などと  
思案を重ね、あつという間に二  
カ月が経過。

いよいよタイトル決めの期限  
が迫り、最後に奥の手の一作を  
提案すると「ミュージカルです  
かあ……?」と微妙な反応が。  
いやいや、これがまた良いん  
だって。なんとってオードリー・  
ヘップバーンが歌って踊って、  
第一何よりフレッド・アステア  
だよ。イーディス・ヘッドとジ  
バンシーの衣装にリチャード・  
アヴェドンの写真。ガーシュイ  
ンの曲にテクニカラー<sup>6</sup>云々かん  
ぬん……。

という訳で今回の上映作品  
は『パリの恋人』。粋な映画です。  
肩の力を抜いて楽しむザッツ・  
エンターテインメント。お洒落  
な服を着て観れば、なお楽し

\*1 マイケル・ジャクソンも憧れた無重力ダンスのミスター・エレガンス \*2 サプリ  
ナパンツ等、ハリウッドに革命をもたらした衣装デザイナー \*3 フランスのファッ  
ションデザイナー \*4 時代を象徴するファッション写真家 \*5 アメリカの偉大な作  
曲家 \*6 初期のカラー映画の彩色技術「まるで魔法をかけたかのよう」と賞される艶  
やかな色彩が特徴

AMERICAN ROOTS MUSIC



古き良きアメリカンフォーク  
&トラッドの世界で、  
極上のタイムトラベルを  
音楽って不思議だなあ、と  
つくづく思う。

時代も国も違う人達がつ  
くった歌に、何でこんなにも  
強く胸打たれるのか。それは  
まるで今を生きるリアルな  
感覚。ハートが痺れたのなら、  
その歌はきっともう自分自  
身のものなんだろう。

今回、五月祭に来てくれる  
やぎたこさんは古き良きア  
メリカンフォーク&トラッド  
の世界を聴かせてくれる素  
敵なアコースティック・デュ  
オ。極上のタイムトラベルを  
お楽しみあれ。

『やぎたこ』ライブ

5月27日(日)

参加会場を巡って演奏してくれます。  
どこに現れるか?

場所と時間は前日に公式HPとFBページにて告知。

〈公式HP〉



CLASSICAL MUSIC

初夏、空の下で奏でる  
クラシック。  
フルートの音色と高原の風  
クラシックを聴く機会があ  
まり無かった。思い出すのは  
小学校の音楽室の遠い記憶。  
窓辺に陽光が差し込んでい  
た。目を閉じると頭いっぱい  
のポジティブなメッセージが  
広がる。

あの時、手にしたのは「音  
の旅」へのチケット。  
『伊豆フィルハーモニー管弦  
楽団 有志による演奏会』  
発足から24年、団員は10  
代から80代まで「音楽大好き」

という共通点のもと集まった  
仲間達で構成される。その地  
元に根ざした活動には静岡  
文化財団より「奨励賞」、NH  
K静岡より「あけぼの賞」、伊  
豆新聞社より「伊豆賞」が贈  
られている。



『伊豆フィルハーモニー管弦楽団』

有志による演奏会

5月20日(日) 13:00~

会場 伊豆高原駅構内

伊豆高原で暮らす方に、創作について、日々の過ごし方についてうかがいました。浮かびあがる伊豆高原の魅力、そのカギは人がつなぐ流動性にありそうです。

## #01

### 文化を継承するということ 学んだローマの日々

彫刻家  
重岡建治さん

小雨降る中、一碧湖近くにあるアトリエを訪ねました。庭にはたくさん作品が立ち、開放的なアトリエ内部には制作途中の作品が置かれ、木の匂いが満ちています。

伊豆高原の好きな季節は？

——若葉の頃が好きです。4月頃かな。あわい芽吹きの時。散歩はね、アトリエの中です。アトリエの中で動き回って、立って仕事しているから。

イタリアへ修業に行かれたそうで

——木彫をしていた若い頃はゴザしてね、大黒様とか仏像を作っていた東京の仏具屋まで風呂敷に包んで売りに行ってました。その貯めたお金で、イタリアのローマの美術学校に勉強に行きました。もう50年前です。当時の美術学校は授業料がタダだったんです。そういう時代だったんです。



学校はテレビの泉の近くにあつて、先生が素晴らしかった。ミケランジェロ以来のいい彫刻家が多く出た、第二のルネッサンスと言われた時代です。エミリオ・グレコという先生に師事しました。厳しかったかって？ いや全然厳しくなくて、生徒にコーヒーをごちそうしてくれたり。イタリアのコーヒーだね。生徒は70人いて、外国人が本当は治安が悪くて貧しかった時代です。今でもガタガタやってるけどね。そういう時代に、外国からも留学生を無償で受け入れる、イタリアはそういう国です。卒業してからも、先生の手伝いしながら学校に残りました。結局12年間ローマにいました。12年間ですが。

## #02

### クルーザー航海で遊んでいたのに 今は完全に伊豆に上がっています。

ヨガ&マクロビオテック・クッキングスクール主宰  
シッツさん

学校はテレビの泉の近くにあつて、先生が素晴らしかった。ミケランジェロ以来のいい彫刻家が多く出た、第二のルネッサンスと言われた時代です。エミリオ・グレコという先生に師事しました。厳しかったかって？ いや全然厳しくなくて、生徒にコーヒーをごちそうしてくれたり。イタリアのコーヒーだね。生徒は70人いて、外国人が本当は治安が悪くて貧しかった時代です。今でもガタガタやってるけどね。そういう時代に、外国からも留学生を無償で受け入れる、イタリアはそういう国です。卒業してからも、先生の手伝いしながら学校に残りました。結局12年間ローマにいました。12年間ですが。

地下鉄がやっとできた時だったけれど、掘れば掘るほどローマ時代の遺跡が出てくるから工事が進まない。スケールが違うよね。ローマは文化を継承していった町で町の誇りだし、皆大切にしてきた。普通のイタリア人はいい加減だけどね。そのいい加減さが世界中の人から愛されているんだよね。日本との違いは？

——日本は合併合併でどんどん村がなくなつた。伊豆にはもう村がない。非常に残念なことだ。村は村で合併するとその村のよき、個性がなくなる。このところ、福島の飯館村の仕事をしているけど、もう既に13点彫刻が行っているよ。来年3月までにあと9点送るんだ。飯館村は原発事故から人口が1割しか戻ってきていないんだ、しかも年寄りだけ。飯館村から村長が何回も来ていて「村を残す」と闘っている村長さんだね、応援しています。



## #03

### 落ち込んだ時も、嬉しい時も 伊豆の海に行く。

画家  
竹内香ノ子さん



ここが好きになつていきます。うちの屋根裏にキツツキが穴をあけて、その穴にリスが巣を作ったりするんですよ。普段森の中を犬の散歩をしたり、子どもが学校に行くのについて行って帰りに池のあたりをぐるぐると回って帰ってきたりします。著作はどのような内容ですか？

SYNIZE」を始めました。東大室の高台にある建物は開放的な空間で魅了されます。伊豆高原の好きな季節は？

伊豆高原にお住まいの竹内さんは、名古屋出身で北海道にも3年暮らしたことがあるとのこと。伊豆に来て10年、よりアクティブな流れになつているようです。

——好きな季節は晩秋です。伊豆の秋は地味ですよ。住んでいたこともある北海道のような赤い黄色！のような派手なコントラストはないのですが、なぜか好きで、絵を描かずにいられない、という気持ちになります。

——くまかあちゃんの絵日記」はブログをまとめたもので、ほぼリアル日記なのです。自分たち家族の伊豆暮らしのことです。伊豆で好きな場所は？

私はスケッチをしないのです。見て頭の中に焼き付けているので、秋とか追いつかないですね。フクロウを見かけたり、鹿が鳴いてますが(笑)住めば住むほど、

——細野高原が好きですね。草原が好きなので秋に限らず。ススキの時期に行くと混んでいるので、誰もいない時期に行って散歩したり本を読んだりしています。

伊豆に来て「ああ自分は画家になつたんだな」という自信がつかしました。名古屋という地域は、ある程度大きいのでそこで完結してしまいがち。伊豆に来て、より作品に対して積極的に活動できるようになつた、幅が広がつたというのが自分の中での変化です。



「くまかあちゃんの絵日記」 絵文：竹内香ノ子 販売：密林社 出版社：あひるぶらんど

城ヶ崎のイガイガ根のところも好きです。別に海に入らずに、ぶらぶらして釣りの人を見ながらぼーっとしています。海にはよく出かけます。ただ見ているのが好きなんです。家にいるとすぐ絵を描いてしまうので、切り替えのために海に行ったり。

——そのうち海外にも出たいですね。今後どのようにされたいですか？



——千葉とか西伊豆も見ただけど、現実に売物件が多いことがポイントでした。総合的に伊豆高原に来てよかったです。

